

平成22年12月の解説（府県天気予報）

【12月の天候状況】

上旬は、東日本から沖縄・奄美は天気が数日の周期で変わり、晴れる日が多くなりました。北日本は低気圧や気圧の谷の影響を受ける日が多く、曇りや雨または雪の日が多くなりました。2日から3日は発達する低気圧により全国的に天気が崩れ、大雨や暴風など大荒れの天気となりました。中旬は、低気圧が短い周期で日本付近を通過したため、ほぼ全国的に曇りや雨または雪の日が多くなりました。下旬は、はじめ発達する低気圧の影響により全国的に天気が崩れ、大雨や大雪となった所がありました。その後は冬型の気圧配置が続き、日本海側は寒気の影響により雪の日が多く、旬の中頃は北日本で、終わりは西日本で記録的な大雪となり交通障害などの災害が発生しました。一方、太平洋側では東日本を中心に晴れる日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、北日本は平年よりかなり少なくなり、月間日照時間の最小値を更新した気象官署がありました。降水量は、沖縄・奄美は平年より少なくなりましたが、その他の地方はかなり多くなり、月降水量の最大値を更新した気象官署がありました。気温は、北、東日本は平年よりかなり高くなり、月平均気温の最高値を更新した気象官署がありました。沖縄・奄美は低くなりました。

【12月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報で83%、明後日予報では80%と、ともに例年（注）並となりました。地域毎の適中率は、明日予報は北陸地方で例年より6ポイント高くなりましたが、九州北部地方で6ポイント低くなりました。明後日予報は北陸地方で7ポイント高くなりましたが、九州北部地方では11ポイント低くなりました。明日の最高気温の予報誤差は北日本と関東甲信地方で例年より0.2小さくなり、九州南部地方で0.2大きくなった他はほぼ例年並みで、全国平均では0.1小さい1.4でした。最低気温の予報誤差は北日本と中国地方で例年より0.2から0.3低くなり、九州南部、沖縄地方では0.2高くなった他はほぼ例年並で、全国平均では例年並でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【2月の天気予報の利用にあたって】

雪崩には大きく分けて表層雪崩と全層雪崩があり、前者は積雪の上に新たに雪が降り積もった場合に発生する新雪雪崩がほとんどで、後者は気温が上昇し地面と積雪との間に雪解け水が流れたり雨水が流れる場合に積雪全体が滑り落ちます。2月は日々の寒暖の変化が大きくなるので、大雪による表層雪崩だけでなく全層雪崩も発生しやすくなります。また、気温の上昇により屋根に降り積もった雪や軒先のつららが落下し、通行人や駐車中の車に被害が発生することもあるので、穏やかに晴れていても気温の予報に注意して下さい。